

2002年の大雨

7月に台風第6号、7号上陸、台風と梅雨前線による大雨となる

1. 概要

(1) 今年の梅雨入りは平年よりもやや遅く、九州南部では10日程度遅れた。梅雨明けは九州南部でやや遅くなった他はほぼ平年並みであった。6月中旬から下旬は、梅雨前線が本州の南岸付近に停滞する事が多かった。7月上旬以降は、梅雨前線が日本海から東北地方に停滞して、東北地方や東日本で降水量が多かった。

(2) 台風の発生数は平年並で、7月には台風第6号、第7号が関東、東海へ相次いで上陸した。10月には台風第21号が関東に上陸して北日本を縦断した。

2. 主な大雨

ここでは、人的被害や社会活動に大きな影響をもたらした大雨について、気象と被害の状況をまとめる。浸水家屋とは床上浸水及び床下浸水の合計を示す。負傷者等の数には風等を原因とするものも含まれる。

1月21日～22日：北日本、東日本<低気圧>

21日から22日にかけて、低気圧が日本海と本州をそれぞれ北東に進み、関東地方から紀伊半島にかけて大雨、北海道地方で暴風となった所があった。三重県尾鷲で21日に日降水量225.5 mm、最大1時間降水量51.5 mmなどを観測した。浸水や土砂災害が発生した。また、北海道浦河で同日、最大風速22.8 m/s、最大瞬間風速40.0 m/sを観測した。

5月15日～16日：西日本<低気圧>

15日から16日にかけて、低気圧が東シナ海から九州付近へ進み、西日本で大雨となった。15日の日降水量は熊本県阿蘇町阿蘇乙姫で282 mm、大分県朝地町温見で221 mmなどであった。15日には、愛媛県で民家裏のがけが崩れるなどの被害が発生した。

6月15日～16日：南西諸島、東日本の太平洋側<梅雨前線>

15日から16日にかけて、梅雨前線が華南から東シナ海を通過して日本の南岸に停滞し、前線上を低気圧が北東へ進んだ。南西諸島や関東地方および東海地方で大

雨となった所があった。15日には沖縄県沖縄市胡屋で日降水量180 mm、16時までの1時間に51 mm、17時までに60 mmなど非常に激しい雨が降った。沖縄県で102棟が浸水し、崖崩れや道路陥没などが発生した。神奈川県でも家屋浸水や道路冠水などの被害があった。

6月28日～7月1日：東日本、西日本<梅雨前線>

6月28日から30日にかけて、梅雨前線が日本の南岸から東シナ海に停滞し、西日本や東日本の太平洋側で大雨となった。7月1日には前線が北上し、九州北部地方で大雨となった所があった。29日の鹿児島県鹿屋市の日降水量は214 mm、07時までの1時間に47 mm、08時までに46 mmなど激しい雨が降った。鹿児島県では水田の見回りをしていた男性が川に流されて死亡した。家屋の浸水73棟、山がけ崩れ34か所などの被害があった。また、陸、海、空の交通機関が運休、欠航した。

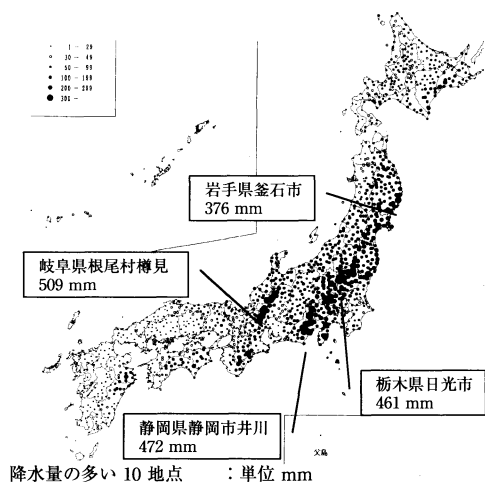
7月9日～11日：全国<台風第6号、梅雨前線>

台風第6号は9日早朝、南大東島の東海上を通過した後、次第に勢力を弱めながら北東へ進んだ。11日00時過ぎには千葉県南部（館山市付近）に上陸し、鹿島灘を経て三陸沖を北北東へ進んだ。台風は、同日21時頃、北海道東部（釧路市付近）に再上陸し、オホーツク海へ進んだ。期間降水量分布図は第1図のとおり。

7月9日から11日にかけて、台風第6号と梅雨前線の影響で、西日本の太平洋側、紀伊半島、東海地方から東北地方の太平洋側にかけてと北海道東部の広い範囲で大雨となった。この台風と梅雨前線による大雨で浸水や土砂災害が発生し、死者行方不明7人、負傷者18人、建物の浸水が約6000戸などがあった。（平成14年7月15日警察庁調べ）その他、鉄道の運休や道路の通行止めなどが相次いだ。また、河川が増水し各地で指定河川の洪水予報が実施された。

7月13日～16日：全国<台風第7号、梅雨前線>

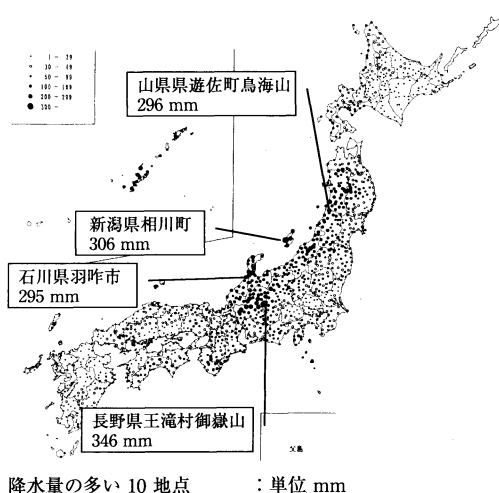
台風第7号は14日21時頃沖縄本島南部を強い勢力で通過して東シナ海へ進み、15日には次第に進路を北東へ変え、16日には本州の南岸を進んだ。台風は同日09



降水量の多い10地点 : 単位 mm

都道府県名	市町村名	アメダス地点名	降水量
岐阜県	根尾村	樽見	509
静岡県	静岡市	井川	472
栃木県	日光市	日光	461
岐阜県	久瀬村	小津	455
静岡県	静岡市	梅ヶ島	444
山梨県	増穂町	八町山	431
栃木県	粟野町	方塞山	424
神奈川県	箱根町	箱根	403
栃木県	那須町	那須	396
栃木県	矢板市	八方が原	389

第1図 期間降水量分布図
(平成14年7月9日~11日)



降水量の多い10地点 : 単位 mm

都道府県名	市町村名	アメダス地点名	降水量
長野県	王滝村	御嶽山	346
新潟県	相川町	相川	306
山形県	遊佐町	鳥海山	296
石川県	羽咋市	羽咋	295
岐阜県	丹生川村	乗鞍岳	293
石川県	押水町	宝達山	292
新潟県	両津市	両津	280
新潟県	両津市	弾崎	271
富山県	氷見市	氷見	261
長野県	穂高町	燕岳	260

第2図 期間降水量分布図
(平成14年7月13日~16日)

時過ぎ伊豆半島南部に上陸し、同日11時前に千葉県南部(館山市付近)に再上陸した。台風は、同日12時過ぎには銚子市付近を通過して鹿島灘を北東へ進んだ。13日から16日にかけて、台風と梅雨前線の影響で、沖縄地方、東北地方の日本海側、中部地方で総降水量200mmを超える大雨となった。特に、長野県と佐渡島では300mmを超える大雨となった所があった。期間降水量分布図は第2図のとおり。この台風と梅雨前線による大雨で負傷者9人、浸水家屋約150戸などの被害があった。(平成14年7月16日警察庁調べ)その他、鉄道の運休や航空便の欠航などが相次いだ。また、河川が増水し各地で指定河川の洪水予報が実施された。

7月24日~27日: 西日本<台風第9号, 第11号>

台風第9号は、25日夜、種子島のすぐ南海上を通過し、26日09時には、五島列島の南西海上を通過して、同日21時にチェジュ島の西海上へ進んだ。また、台風第11号は、26日には日本の南海上を北西へ進み、27日早

朝には種子島と屋久島の間を通過して昼過ぎには九州の南海上で消滅した。この2つの台風のため、25日から27日にかけて西日本の太平洋側で大雨が降った。特に九州地方の太平洋側では降水量が多く、宮崎県日之影町見立では3日間の降水量が700mmを超えた。このため、道路の損壊や山・がけくずれが発生した。また、同県油津では25日に最大風速24.1m/s、最大瞬間風速41.4m/s、26日には鹿児島県枕崎で最大風速21.7m/s、最大瞬間風速45.8m/sを観測するなど九州南部を中心に暴風が吹いた。また、海、空の交通機関が運休、欠航した。

8月5日~6日: 北海道<低気圧>

5日から6日にかけて、低気圧が朝鮮半島北部から北海道を通過して千島近海へ進み、檜山支庁瀬棚町で5日に日降水量98mm、19時までの1時間に69mmなど北海道南部で非常に激しい雨が降った。檜山支庁では家屋浸水34棟の被害があった。

8月11日～12日：東北地方＜停滞前線，低気圧＞

11日から12日にかけて，前線が東北地方から対馬海峡を通過して華南へ伸び，前線上を低気圧が北東へ進み，東北地方で大雨となった。日降水量は11日に山形県八幡町上草津で167 mm，青森県市浦村で118 mm，12日に岩手県駒ヶ岳で195 mm，秋田県秋田市仁別で154 mm などであった。青森県や秋田県では浸水家屋が300棟に達した他，耕地の冠水や土砂災害も発生した。

8月17日～21日：北日本，東日本，紀伊半島＜台風第13号＞

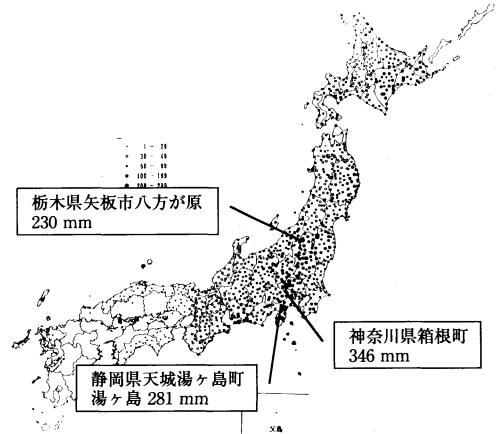
17日から18日にかけて，台風第13号は日本の南海上を北西進し，紀伊半島の南海上に達した。その後，台風は北東に進路を変えて19日に伊豆諸島を通過し，日本の東海上へ進んだ。伊豆諸島や東海地方では総降水量300 mmを超える大雨となった所があった。東京都神津島では19日の12時～15時までの1時間降水量が60 mm，63 mm，62 mm，59 mmの非常に激しい雨となり，日降水量は367 mmに達した。また，台風の通過した伊豆諸島では暴風となり，三宅島では19日に最大風速28.3 m/s，最大瞬間風速41.8 m/sを観測した。神奈川県では住家35棟が浸水し，海，空の交通機関が運休，欠航した。

8月27日～9月2日：紀伊半島，西日本の太平洋側，南西諸島＜台風第15号＞

台風第15号は，27日から28日にかけて小笠原諸島付近から日本の南海上へ進み，西日本の太平洋側で雨が降り，紀伊半島で大雨となった。台風は，29日夜には奄美大島北部を通過した。30日から31日にかけては台風の北上に伴って，台風を取り巻く雲域が西日本にかかり，西日本の太平洋側を中心に大雨となった所があった。台風は，9月1日に朝鮮半島を通過して熱帯低気圧となったが，西日本には南から雲域が次々とかかり，四国地方で大雨となった所があった。また，台風の接近した南西諸島や九州南部地方では29日から31日にかけて，最大風速20 m/s以上の暴風となった所があった。この台風による負傷者は12人，住家の全半壊11棟，住家浸水62棟などであった。（平成14年9月1日消防庁調べ）

9月3日～7日：南西諸島＜台風第16号＞

台風第16号は，9月3日から7日にかけて，日本の南海上から南西諸島へ進んだ。台風は，4日早朝に南



降水量の多い10地点 単位 mm

都道府県名	市町村名	アメダス地点名	降水量
神奈川県	箱根町	箱根	346
静岡県	天城湯ヶ島町	湯ヶ島	281
栃木県	矢板市	八方が原	230
埼玉県	秩父市	浦山	223
福島県	福島市	吾妻山	220
埼玉県	秩父市	秩父	220
福島県	福島市	鷲倉	219
埼玉県	都幾川村	都幾川	213
埼玉県	寄居町	寄居	204
愛知県	田原町	田原	203

第3図 期間降水量分布図

(平成14年9月30日～10月2日)

大東島の南海上を通り，同日夜遅くから翌日5日早朝にかけて沖縄本島を通過した。さらに台風は久米島付近を通過して宮古島の北海上へ進んだ。台風は沖縄本島を通過した後，速度が遅くなり沖縄地方では長時間暴風が吹き，大雨が降った。この台風によって沖縄県や鹿児島県では強風による転倒などで負傷者が31人上った。また，住家の全半壊は46棟，浸水45棟などであった。（平成14年9月7日消防庁調べ）

9月16日～17日：中部地方，西日本＜低気圧＞

16日から17日かけて，低気圧が山陰沿岸から北陸沖へ進み，西日本や中部地方で大雨となった所があった。九州北部地方では16日昼前から宵のうちにかけて，1時間に50 mm以上の非常に激しい雨となった所があった。佐賀県伊万里市では，17時までの1時間に70 mm，18時までに86 mmの猛烈な雨となった。福岡県では家屋浸水が111棟に上り，山がけ崩れが発生した。

9月30日～10月2日：北日本、東日本<台風第21号>

9月27日03時に南鳥島の南海上で発生した台風第21号は、29日には沖の鳥島の東海上で非常に強い勢力となった。日本の南海上を北北東に進み、強い勢力のまま10月1日20時頃、三浦半島を通過し、同日20時半頃神奈川県東部（川崎市付近）に上陸した。台風は、関東地方から東北地方を通過し、2日06時頃北海道苫小

牧市付近に再上陸した。台風は北海道を北へ進み、同日15時にサハリンの西の海上で温帯低気圧に変わった。台風は強い勢力のまま、速い速度で北上したため各地で暴風となった。期間降水量分布図は第3図のとおり。この台風による死者は5人、負傷者65人に上り、突風を原因とするものがほとんどであった。また、浸水家屋346戸、山崖崩れ46箇所に入った。（平成14年10月3日警察庁調べ）交通機関の運休、遅延などが発生した。

2002年の台風

上陸台風3個はすべて関東地方を通過

1. 概況

2002年に発生した台風は26個で、年間発生数の平年値（26.7個）とほぼ同じだった。8月末までに発生した台風は17個で平年（14.0個）よりやや多めだったが、9月と10月に発生した台風が6個（平年9.0個）とやや少なく、全体では平年並になった。

日本に上陸した台風は平年（2.6個）に近い3個（第6号、第7号、第21号）であった。7月には台風第6号、第7号が相次いで上陸し、関東地方を通過した。また、接近数は、本土に平年（5.2個）より多い8個、南西諸島にも平年（7.2個）よりやや多い9個だった。第1表に台風の発生数、上陸数、接近数について、第2表に2002年に発生した台風の一覧を示す。

2. 日本に影響した主な台風

日本に影響した台風（本稿では台風の中心が日本から概ね500 kmに入った場合とする。）のうち、主な台風について以下に概要を示す。なお、風速や降水量などの観測値を記載する際の観測地点名は、气象台や測候所などのときはその官署名を、アメダスの場合は、都道府県名、市町村名及び地点名（地点名が市町村名と同じ場合は省略）とした。被害状況については、主に気象庁がとりまとめた資料によるが、一部、警察庁発表の資料も使用した。第3表に日本に影響した台風の一覧、第1図にその経路図を示す。

(1) 台風第6号（CHATAAN）

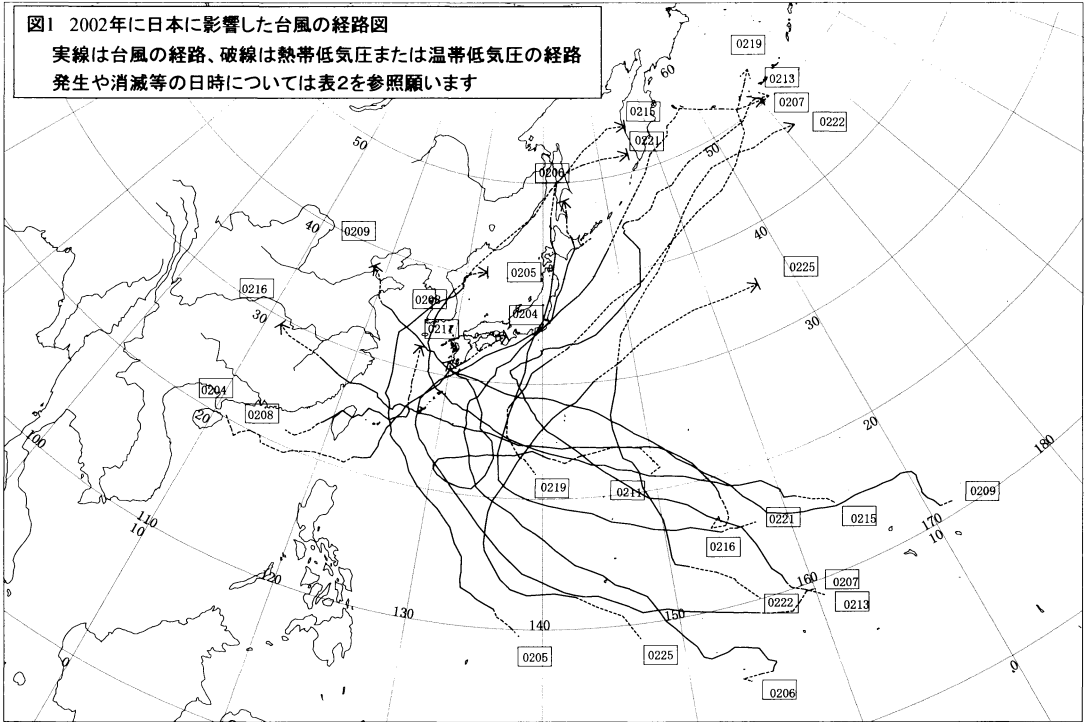
関東に上陸、さらに北海道に再上陸

6月28日09時にトラック島近海で発生した熱帯低気圧は発達して、29日09時に同海域で台風第6号になった。台風は発達しながら北西寄りに進み、7月5日07時頃、強い勢力でグアム島を通過した。台風は7日09時に沖の鳥島の南東海上で大型で非常に強い勢力に発達した。台風は同日夜、同島付近を通過した後、次第に向きを北寄りに変えて進んだ。9日早朝、南大東島の東海上を通過した後、次第に勢力を弱めながら北東へ進んだ。台風は、11日00時過ぎ、千葉県南部（館山市付近）に上陸し、鹿島灘を経て三陸沖を北北東へ進み、同日21時頃、北海道東部（釧路市付近）に再上陸した。台風はさらに勢力を弱めながらオホーツク海に進み12日00時に温帯低気圧に変わった。この温帯低気圧は北へ進み、13日15時にサハリン付近で消滅した。

台風と梅雨前線の影響で西日本の太平洋側、紀伊半島、東海地方から東北地方の太平洋側にかけてと北海道東部の広い範囲で大雨となった。

主な日降水量は、9日に大分県野津町出羽220 mm、宮城県北郷村中小屋169 mm、10日に岐阜県根尾村樽見495 mm（歴代1位）、静岡県静岡市井川450 mm（歴代1位）、山梨県増穂町八町山423 mm（歴代1位）、11日に岩手県釜石市232 mm、北海道音別二俣216 mm（歴代1位）などであった。

この大雨で浸水や土砂災害が発生し、死者行方不明



第1図 2002年に日本に影響した台風の経路図。実線は台風の経路、破線は熱帯低気圧または温帯低気圧の経路。発生や消滅等の日時については表2を参照願います。

第1表 2002年の台風発生、日本への上陸^{*1}、日本への接近数^{*2}。

項目	月	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	年間
		発生数	0.5	0.1	0.4	0.8	1.0	1.7	4.1	5.5	5.1	3.9	2.5	
平 年	上陸数						0.2	0.5	0.9	0.9	0.1	0.0		2.6
	接近数				0.1	0.5	0.7	2.1	3.4	2.6	1.3	0.7	0.1	10.8
	発生数					1	2	5	6	5	3	1	3	26
2001年	上陸数								1	1				2
	接近数					1		2	2	4	2			11
	発生数	1	1			1	3	5	6	4	2	2	1	26
2002年	上陸数							2			1			3
	接近数						1	6	2	2	1	1		13

(注) 平年値は、1971年～2000年の30年平均。

日本への接近は2か月にまたがる場合があり、各月の接近数の合計と年間の接近数とは必ずしも一致しない。

上陸 台風の中心が北海道、本州、四国、九州の海岸線に達した場合を「上陸」という。

接近 台風の中心が、日本の海岸線から300km以内に入った場合を「接近」という。

第2表 2002年に発生した台風の一覧表。

台風番号	台風名	熱帯低気圧の発生		台風の発生		海面気圧		風速		強風域半径		熱帯低気圧または温帯低気圧となった日時と位置		消滅前の最後で確認された日時と位置、又は域外で最初に確認された日時		
		月日時北緯東経	月日時北緯東経	月日時北緯東経	月日時北緯東経	月日時hPa	月日時m/s	月日時	km	月日時北緯東経	種類	月日時北緯東経	種類			
1	TAPAH	1 10 09	9.0 134.5	1 12 09	12.6 127.7	1 12 21	996	1 12 21	20	1 12 21	N:260 S:90	1 13 09	14.8 123.7	TD	1 14 03	17.6 122.5
2	MITAG	2 26 21	5.8 155.7	2 28 21	7.1 151.2	3 6 09	930	3 6 15 50	3	3 6 21	NW:650 SE:370	3 8 21	16.7 134.8	TD	2 9 09	15.4 132.9
3	HAGIBIS	5 14 09	3.5 149.0	5 16 21	12.3 143.1	5 20 03	935	5 20 03 50	5	5 20 03	E:700 W:200	5 22 03	38.3 169.1	L	5 22 15	39.8 179.4
4	NOGURI	6 4 09	20.2 111.1	6 8 15	21.2 122.9	6 10 12	975	6 10 12 30	6	6 10 03	SE:220 NW:100	6 11 06	31.6 131.7	TD	6 11 15	34.4 135.8
5	RAMMASUN	6 28 09	9.8 138.0	6 29 09	11.4 136.3	7 4 12	945	7 4 12 45	7	3 06	SE:850 NW:560	7 6 21	38.5 129.8	L	7 8 03	40.4 132.7
6	CHATAAN	6 28 09	4.7 154.0	6 29 09	5.0 155.5	7 9 03	930	7 9 03 50	7	3 03	SE:560 NW:480	7 12 00	44.2 144.1	L	7 13 09	48.0 143.7
7	HAIKONG	7 6 15	9.5 160.0	7 8 03	9.1 155.6	7 14 06	945	7 14 06 45	7	13 15	SE:700 NW:410	7 17 03	42.4 148.9	L	7 20 03	域外へ
8	NAKRI	7 8 03	21.3 116.4	7 9 09	23.1 119.3	7 9 15	985	7 10 21 25	7	10 15	S:330 N:260	7 13 00	27.3 126.5	TD	7 13 21	32.1 126.4
9	FENGSHEN	7 14 03	10.9 171.8	7 14 09	11.0 170.9	7 22 09	920	7 22 09 50	7	22 09	NE:600 SW:440	7 27 21	35.0 120.9	TD	7 28 21	38.2 118.4
10	KALMAEGI	7 19 03	21.4 149.7	7 21 03	23.4 140.5	7 24 15	960	7 24 15 35	7	24 21	S:280 N:220	7 27 12	30.9 130.0	TD	7 27 15	31.3 129.8
11	FUNG-WONG	8 2 09	19.5 120.3	8 4 03	20.7 114.6	8 5 03	980	8 5 03 30	8	5 09	S:800 N:110	8 5 21	25.0 115.4	TD	8 7 09	28.4 114.2
12	KAMMURI	8 11 09	8.9 160.5	8 12 09	10.6 158.2	8 16 18	940	8 17 00 45	8	21 03	800	8 21 09	43.9 151.6	L	8 25 09	域外へ
13	PHANFONE	8 15 15	13.5 113.6	8 18 09	16.3 112.5	8 19 21	985	8 19 21 20	8	19 09	500	8 20 06	24.1 109.7	TD	8 20 09	25.0 108.0
14	VONGFONG	8 22 15	14.9 163.8	8 23 09	16.5 161.0	8 31 00	950	8 29 12 40	8	28 09	NE:650 SW:440	9 1 09	38.0 128.7	TD	9 4 03	55.0 156.0
15	RUSA	8 27 21	16.4 154.7	8 29 15	18.3 155.1	9 2 09	950	9 7 06 40	9	6 06	NW:560 SE:440	9 8 09	28.2 116.9	TD	9 9 09	29.4 111.5
16	SINILAKU	域外	域外	域外	域外	9 3 21	940	9 3 21 45	9	4 15	N:650 S:410	9 10 03	39.9 167.2	TD	9 12 09	域外へ
17	ELE	域外	域外	域外	域外	9 11 21	990	9 11 21 23	9	11 21	SE:370 NW:190	9 12 09	22.0 111.0	TD	9 16 03	21.7 112.5
18	HAGUPIT	9 10 03	19.4 118.7	9 11 09	20.6 114.2	9 11 21	990	9 11 21 23	9	11 21	370	9 22 21	32.3 141.0	L	9 25 21	域外へ
19	CHANGMI	9 20 15	22.1 139.3	9 22 03	27.9 136.6	9 22 15	985	9 22 15 23	9	22 15	220	9 28 09	21.3 109.6	TD	9 28 15	21.2 109.7
20	MEKKHALA	9 22 15	13.5 114.3	9 25 09	17.4 109.7	9 25 21	990	9 25 21 23	9	26 03	220	10 2 15	46.2 141.1	L	10 4 09	51.9 155.2
21	HIGOS	9 26 09	15.6 157.4	9 27 03	15.6 154.5	9 30 15	930	9 30 15 50	10	2 03	E:750 W:560	10 13 21	30.8 148.0	L	10 16 15	域外へ
22	BAVI	10 8 21	10.1 156.0	10 10 03	13.6 151.3	10 12 09	985	10 12 03 30	10	12 09	N:850 S:650	10 13 21	30.8 148.0	L	10 16 15	域外へ
23	MAYSAK	10 26 21	18.0 162.6	10 28 03	23.4 159.7	10 29 15	980	10 29 21 30	10	29 15	E:500 W:370	11 7 09	27.8 172.6	L	11 8 03	域外へ
24	HUKO	域外	域外	域外	域外	11 5 03	985	11 5 03 40	11	7 03	NE:370 SW:310	11 25 09	30.0 145.5	L	11 26 21	34.7 165.9
25	HAI SHEN	11 20 09	9.0 147.0	11 21 03	12.3 142.5	11 24 03	955	11 24 03 45	11	25 03	750	12 11 15	29.0 160.0	L	12 12 03	32.5 169.2
26	PONGSONA	12 2 15	7.2 164.9	12 3 21	8.7 161.2	12 10 03	940	12 10 03 45	12	10 09	E:600 W:560	12 11 15	29.0 160.0	L	12 12 03	32.5 169.2

表中の日時はすべて日本時 (JST)。
 「台風期間中の最低(大)値」の起時は、最低(大)となった最後の時刻である。
 (但し、風速はノットで解析し、5m/s単位に換算しているため必ずしもこれに当てはまらない事がある。)
 強風域とは、台風の周辺で平均風速がおおむね15m/s以上の領域。
 種類欄の「TD」は熱帯低気圧、「L」は温帯低気圧を表す。
 域外とは、日付変更線(東経180°)より東側、又は東経100°より西側の領域。

第3表 2002年に日本に影響した台風の一覧表。

台風番号	日本への影響		日本への接近		上陸, 通過
	始 月日	終 月日	始 月日	終 月日	
4	6.8	6.11	6.9	6.11	6月10日02時半頃、宮古島を通過した。
5	7.2	7.4	7.3	7.4	7月3日21時過ぎ、宮古島を通過した。
6	7.8	7.11	7.8	7.11	7月11日00時過ぎ、千葉県南部（館山市付近）に上陸した。 7月11日21時頃、北海道東部（釧路市付近）に再上陸した。
7	7.14	7.17	7.14	7.17	7月14日21時頃、沖縄本島南部を通過した。 7月16日09時過ぎ、伊豆半島南部に上陸した。 7月16日11時前、千葉県南部（館山市付近）に再上陸した。 7月16日12時過ぎ、銚子市付近を通過した。
8	7.9	7.12	7.9	7.12	7月25日21時前、屋久島付近を通過した。
9	7.23	7.26	7.23	7.26	
11	7.23	7.27	7.26	7.27	
13	8.16	8.20	8.16	8.20	8月19日17時前、八丈島付近を通過した。
15	8.27	9.1	8.28	8.31	
16	9.2	9.7	9.2	9.6	8月29日21時頃、奄美大島北部を通過した。 9月4日06時半頃、南大東島付近を通過した。 9月5日01時前、沖縄本島南部を通過した。 9月5日08時頃、久米島付近を通過した。
19	9.22	9.22	9.22	9.22	
21	10.1	10.2	10.1	10.2	10月1日20時頃、三浦半島を通過した。 10月1日20時半頃、神奈川県東部（川崎市付近）に上陸した。 10月2日06時頃、北海道苫小牧市付近に再上陸した。
22	10.12	10.13			
25	11.24	11.24	11.24	11.24	

7人、負傷者18人、建物の浸水が約6000戸などがあった。(平成14年7月15日警察庁調べ)その他、鉄道の運休や道路の通行止めなどが相次いだ。また、河川が増水し各地で指定河川の洪水予報が実施された。

また、10日に八丈島で最大風速南西27.3 m/s (23:00)、最大瞬間風速南西46.1 m/s (22:47)、11日に銚子で最大風速西北西24.4 m/s (03:40)、最大瞬間風速西36.3 m/s (03:28)などを観測した。

10日16時から16時半頃、群馬県佐波郡境町で藤田スケール F1~F2(風速33~69 m/sに相当)、埼玉県深谷市でF0~F1(風速17~49 m/sに相当)の竜巻が発生した。

(2) 台風第7号 (HALONG) 東海、関東に上陸

7月6日15時にマージナル諸島近海で発生した熱帯低気圧は西寄りへ進みながら発達して、8日03時にトラック島の北東海上で台風第7号になった。台風は発達しながら西北西へ進み、11日03時にグアム島の南西海上で強い勢力となった。その後、台風は北西へ進路を変えて進み、13日03時には沖の鳥島の南海上で大型で非常に強い勢力となり、14日朝には沖縄の南海上に達した。台風は、次第に勢力を弱めながら北寄りに進路を変え、同日21時頃沖縄本島南部を強い勢力で通過して東シナ海へ進んだ。台風は15日には次第に進路を北東へ変え、九州の南海上、さらに四国の南海上を進んだ。台風は16日には本州の南岸を進み、同日09時過ぎ伊豆半島南部に上陸し、同日11時前に千葉県南部(館山市付近)に再上陸した。台風は、同日12時過ぎには銚子市付近を通過して鹿島灘を北東へ進んだ。台風は17日03時には北海道の東海上で温帯低気圧に変わった。この温帯低気圧は北東へ進んで18日にはカムチャッカ半島の東海上に達し、20日にはアリューシャン近海へ進んだ。

台風と梅雨前線の影響で、沖縄地方、東北地方の日本海側、中部地方で総降水量200 mmを超える大雨となった。

主な日降水量は、13日に石川県押水町宝達山156 mm、14日に沖縄県玉城村糸数110 mm、15日に新潟県相川町240 mm (歴代1位)、長野県王滝村御嶽山217 mm、沖縄県伊是名村205 mm、16日に岐阜県根尾村樽見172 mm、静岡県中伊豆町天城山161 mmなどを観測した。

また、14日に沖縄県伊是名村で最大風速南南東29 m/s (23時)、鹿児島県与論島で最大風速南27 m/s (24

時)、名護で最大風速南27.3 m/s (23:40)、最大瞬間風速南44.2 m/s (23:45)、15日に沖永良部で最大風速南31.6 m/s (02:50)、最大瞬間風速南46.5 m/s (02:18)名護で最大風速南27.1 m/s (00:10)、最大瞬間風速南南西46.4 m/s (00:11)、16日に八丈島で最大風速南西22.7 m/s (09:50)、最大瞬間風速南西40.6 m/s (09:44)などを観測した。

台風と梅雨前線による大雨で浸水や土砂災害が発生し、負傷者9人、建物の浸水が約150戸などがあった。(平成14年7月16日警察庁調べ)その他、鉄道の運休や航空便の欠航などが相次いだ。また、河川が増水し各地で指定河川の洪水予報が実施された。

(3) 台風第9号 (FENGSHEN)

屋久島付近を通過、九州の西海上を北上

7月14日03時にマージナル諸島近海で発生した熱帯低気圧は発達しながら西へ進み、同日09時に同海域で台風第9号になった。台風は北寄りに進路を変えて15日21時には同海域で強い勢力となった。台風は16日にはウェーク島の南東海上で、西へ向きを変え、同日21時には非常に強い台風となった。台風は20日には同島の南西海上で向きを北西へ変え、21日15時には南鳥島の南海上で大型で非常に強い勢力に発達した。台風は23日に同島の西海上を通過した。その後は西へ進みながらやや勢力を弱めたが、25日早朝まで強い勢力を維持して日本の南海上へ進んだ。台風は同日21時前に屋久島付近を通過して九州の西海上を北西へ進み、26日夜にはチェジュ島付近を通過して、さらに勢力を弱めながら黄海へ進んだ。台風は27日21時に同海域で熱帯低気圧になった。この熱帯低気圧は北寄りに進路を変えて山東半島を通過し、29日03時に渤海で消滅した。

主な日降水量は、25日に宮崎県日之影町見立308 mm、鹿児島県田代町211 mm、26日に宮崎県日之影町見立358 mm、高知県仁淀村鳥形山258 mmなどであった。

また、25日に室戸岬で最大風速東北東29.0 m/s (10:40)、最大瞬間風速東北東34.5 m/s (12:40)、油津で最大風速北東24.1 m/s (17:00)、最大瞬間風速北北東41.4 m/s (16:27)、屋久島で最大風速北西20.9 m/s (17:20)、最大瞬間風速北西35.6 m/s (17:32)、26日に枕崎で最大風速南東21.7 m/s (02:30)、最大瞬間風速東南東45.8 m/s (00:50)などを観測した。

福岡県や鹿児島県で強風が煽られて転倒するなどの被害が発生した。鹿児島県では住家の一部損壊が20棟

に上った。(平成14年7月29日消防庁調べ)

(4) 台風第13号 (PHANFONE)

日本の南海上をゆっくりと北上、八丈島へ接近

8月11日09時にポナペ島の北東海上で発生した熱帯低気圧は発達しながら北西へ進み、12日09時に同島の北海上で台風第13号になった。台風は北北西のち北西へ進み、14日09時にサイパン島の北東海上で強い勢力になった。台風はさらに発達して、15日21時に父島の南西海上で大型で非常に強い勢力となった後、北北西に向きを変えて進んだ。台風は17日にはやや弱まって強い勢力となり18日夕方、紀伊半島の南海上で北東へ向きを変えた。台風は19日17時前、八丈島付近を通過し、次第に速度を上げて東北東へ進んだ。台風は日本の東海上を次第に進路を北寄りに変えて進み、21日09時に北海道の東海上で温帯低気圧に変わった。この低気圧は東北東へ進み、25日にはアリューシャン近海を更に東へ進んだ。

紀伊半島の南海上で台風の速度が遅かったため、伊豆諸島や東海地方で雨が長時間降り続き、総降水量300mmを超える大雨となった所があった。

主な日降水量は、18日に大島191mm、静岡県中伊豆町天城山188mm、19日に神津島村367mm、神奈川県箱根町225mm、埼玉県大滝村三峰210mm、山梨県大月市198mmなどであった。

山梨県や神奈川県で住家の浸水が発生した。(平成14年8月19日消防庁調べ)

台風の通過した伊豆諸島では暴風となり、19日に三宅島で最大風速北北東28.3m/s(19:10)、最大瞬間風速北北東41.8m/s(19:30)を観測した。

(5) 台風第15号 (RUSA)

奄美大島を通過、九州の西海上を北上

8月22日15時にビキニ島の北海上で発生した熱帯低気圧は発達しながら西北西へ進み、23日09時に同島の北西海上で台風第15号になった。台風は26日21時には、父島の南東海上で大型で強い台風となった。台風は次第に北西へ向きを変え、29日21時頃奄美大島北部を通過した。台風は次第に北へ向きを変えて東シナ海を進み、31日18時頃朝鮮半島に上陸した。台風は北北東へ向きを変えて、急速に弱まり、9月1日の09時に同半島の東岸で熱帯低気圧になった。この熱帯低気圧は北東へ進み、2日03時に沿海州で温帯低気圧に変わり、4日09時にはカムチャッカ半島で消滅した。

27日から28日は、紀伊半島で大雨となった。29日から31日にかけては、西日本の太平洋側を中心に大雨となった所があった。9月1日には熱帯低気圧となったが、西日本には南から雲域が次々とかかり、四国地方で大雨となった所があった。

主な日降水量は、28日に奈良県上北山村日出岳450mm、和歌山県本宮町208mm、29日に鹿児島県伊仙町229mm、奈良県上北山村日出岳218mm、30日に宮崎県南郷村神門340mm、熊本県湯前町湯前横谷298mm、31日に高知県池川町324mm、愛媛県西条市成就社271mm、9月1日に徳島県神山町旭丸425mm、高知県本川村407mmなどであった。

また、29日に沖永良部で最大風速北西22.1m/s(14:20)、最大瞬間風速西北西40.0m/s(18:48)、30日に枕崎で最大風速南東21.1m/s(22:00)、最大瞬間風速東南東47.5m/s(08:52)、油津で最大風速東南東21.1m/s(03:30)、最大瞬間風速東南東29.5m/s(03:22)、屋久島で最大風速南東21.0m/s(12:10)、最大瞬間風速南東34.9m/s(08:56)などを観測した。

強風による転倒や飛散物による負傷、家屋浸水などが発生した。

(6) 台風第16号 (SINLAKU)

沖縄付近をゆっくりと通過、長時間暴風雨が続く

8月27日21時に南鳥島の南海上で発生した熱帯低気圧は、26日15時に同海域で台風第16号になった。台風は北西へ進みながら発達して、31日09時に同島の西南西海上で強い勢力になった。台風は西寄りに進んで9月4日06時半頃、南大東島付近を通過し、5日01時前に沖縄本島南部を通過した。台風は、同日08時頃久米島付近を通過し、同日夜から6日早朝にかけて同島の西海上で大型で強い勢力となった。台風は東シナ海を西へ進み、7日夕方から急速に勢力が弱まり同日21時に華中に上陸した。台風は西へ進み8日09時に同域で熱帯低気圧になり、9日15時に消滅した。

主な日降水量は、4日に沖縄県国頭村奥196mm、鹿児島県与論町166mm、5日に沖縄県国頭村奥256mm、那覇255mm、6日に宮古島263mmなどであった。

また、4日に南大東島で最大風速南東30.4m/s(09:20)、最大瞬間風速南49.5m/s(08:54)、名護で最大風速北30.1m/s(20:20)、最大瞬間風速北西57.9m/s(18:25)、沖永良部で最大風速東北東27.7m/s(19:40)、最大瞬間風速東北東43.1m/s(21:15)、5日に那覇で最大風速南東32.2m/s(07:50)、最大瞬間

風速南南東57.5 m/s(06:26), 久米島で最大風速北西24.0 m/s(02:10), 最大瞬間風速北西48.7 m/s(02:16), 6日に宮古島で最大風速南西27.6 m/s(09:10), 最大瞬間風速南南西45.8 m/s(13:42)などを観測した。

台風の動きが遅く, 沖縄本島地方では長時間暴風雨となり, 家屋の損壊や家屋浸水が多数発生した。倒壊した建物の下敷きとなり1人が死亡, 負傷者が多数発生した。また, 停電や電話の不通が長時間続き, 農作物にも大きな被害があった。

(7) 台風第21号 (HIGOS)

関東に上陸, 北日本を縦断

9月26日09時に, 南鳥島の南東海上で発生した熱帯低気圧は, 発達しながら西へ進み, 27日03時に同島の南海上で台風第21号になった。台風は西北西へ進み, 28日21時にサイパンの北西海上で強い勢力になり, 29日09時には沖の鳥島の東海上で非常に強い勢力となった。台風は30日には同島の北海上で進路を北に変え, 次第に速度を上げて日本の南海上を北北東に進んだ。台風は勢力をやや弱めたが, 強い勢力のまま10月1日20時頃, 三浦半島を通過し, 同日20時半頃神奈川県東部(川崎市付近)に上陸した。台風は, 関東地方から東北地方を通過し, 2日には北海道の南海上に進み, 同日06時頃, 北海道苫小牧市付近に再び上陸した。台

風は北海道を北へ進み, 2日15時にサハリンの西の海上で温帯低気圧になった。この低気圧はサハリン西岸に達した後, 東に進路を変えて4日15時にカムチャッカ半島の西海上で消滅した。

主な日降水量は, 1日に神奈川県箱根町342 mm, 静岡県天城湯ヶ島町263 mm, 栃木県矢板市八方が原223 mmなどであった。

台風の通過した地域では, 範囲は狭かったが, 25 m/sを超える暴風となった。関東地方の東部や東北地方の太平洋沿岸部は特に風が強かった。1日には石廊崎で最大風速東北東30.7 m/s(17:50), 最大瞬間風速東53.0 m/s(17:58), 銚子で最大風速南29.8 m/s(21:10), 最大瞬間風速南52.2 m/s(21:20), 小名浜で最大風速南南東28.8 m/s(22:20), 最大瞬間風速南東48.1 m/s(22:10), 2日には浦河で最大風速東25.4 m/s(04:10), 最大瞬間風速東44.7 m/s(04:43), 釧路で最大風速南25.5 m/s(09:10), 最大瞬間風速南南東38.7 m/s(07:03)を観測するなど各地で暴風となった。

この台風による死者は5人, 負傷者65人に上り, 突風を原因とするものであった。1日には大島の波浮港付近で自動車運搬船が座礁し, 強風のため茨城県潮来市などで送電用鉄塔9基が倒壊した。また, 浸水家屋346戸, 山崖崩れ46箇所に入った。(平成14年10月3日警察庁調べ) 交通機関の運休, 遅延などが発生した。